勝利が似合う者の言葉を聞く

オリエンテーリング 道場 第 77 回

松澤俊行

2013 年 3 月、福井県で開催された全日本大会。21E クラス優勝は、男子・結城克哉選手、女子・皆川美紀子選手でした。今回は道場主が聞き手となって引き出した 2 人の言葉を紹介します。

優勝者の声

松澤:

「優勝おめでとうございます。皆川選手はフット O 全日本大会での、同一年度全種目制覇、いわゆる「年間グランドスラム」がかかっていました。また、結城選手はインカレミドル優勝の後を受けて「全日本も」との周囲の期待が高まっていました。大会前にプレッシャーはあったでしょうか？　当日は自分の走りができたでしょうか？」

皆川:

「グランドスラムもかかっており、けっこうプレッシャーは感じていました。しかし、結果を意識しすぎると自分のレースに集中できないので、『今の自分の力を出し切れば、結果は付いてくる』とずっと言い聞かせていました。大事な大会の前はいつもの自己暗示です。

当日は、前半はすごく落ち着いて、思うようにコントロールに着けていたのですが、後半は欲が出たというか、確実なプランよりも自分のやりたいようにやってしまい、最後に痛恨のルートミスをしたのが悔やまれます。」

結城:

「自分は、インカレを重視しており、全日本に向けて万全の調整ができていたわけではないので、2 月の JOA 合宿時に調子のよかった小泉選手や寺垣内選手が本命ではないかと考えていました。なので、特に当日気負うこともなく、ただ上位の選手への挑戦としてレースに臨みました。

レースの内容としましては、自分の納得のいく走りではありませんでした。中盤で鹿島田選手に追いつくまでは及第点の走りだととらえていましたが、そこから一気に離されてしまい、姿を捉える事ができなくなった時点で勝ちに行くオリエンテーリングから漫然としたオリエンテーリングに切り替わってしまいました。その点が大きな反省点です。」

全日本大会競技中の皆川（写真：上林）

皆川美紀子 全日本大会グランドスラム

松澤:

「お二人とも反省点の残るレースだったとのこと。それでも優勝ですから、地力が高かった、ということでしょう。フィニッシュ後の感触は、率直にいかがでしたか？　結果を見て、例えば 2 位とのタイム差等についてどう感じたでしょうか？」

皆川:

「悔やまれるミスはあるものの、致命的なミスなくまとめられたので、勝った手応えはありました。あまり、2 位とのタイム差は考えていないので、結果的にタイム差を付けての優勝でしたが、それよりも自分のレースができたことを評価したいと思います。」

結城:

「レース中の手応えは先ほど応えた通りで、フィニッシュ時の感触としても入賞争いまたは圏外という印象でした。2 位は鹿島田さんだったので、終盤まで競れていればもう少しいい記録が出たのではないかと、悔しさが残りました。」

松澤:

「似たタイプのテレインで練習する機会もなかなかないし、手強いコースだったとの感想も他の選手からはありました。本格的なロングの大会もそう多くなく、レースのシミュレーションも難しかったかもしれません。事前にテレインやコース、それからロングという種目への対応を図るような準備を何かされたでしょうか？　また、実際のコースについてはどう思われたでしょうか？」

皆川:

「全日本前にロングを練習する機会がなかったので、できるだけ地図読みを頑張ろうと思いました。1：15,000 の地図でレッグを組んでみたり、過去の全日本のコースがどう組まれているかを見たり、頭、眼だけでも 1：15,000 に慣れるよう準備しました。

全日本ということで、コースの難易度も上がると思ったので、確実に丁寧にやるべきレッグが組まれたのは予想通りでした。テラインの制約もあると思いますが、ルートチョイスがあって、

ルートプランに考えさせられるロングレッグがあると、さらに走り応えがあると思います。」

全日本大会競技中の結城（写真：上林）

結城克哉
2012 年度は全日本ロング種目、インカレロング種目、インカレミドル種目を制覇。大活躍の 1 年だった。

結城:
「直前期は卒論で忙しく、ラントレ以外に特別なトレーニングはしていませんでした。インカレミドル・リレーまでに走行距離を伸ばしていたので、そのトレーニング成果が残っていたのかもしれません。テレインについては、急斜でヤブいことを想定して、旧図から地形のイメージを作っていました。
実際のコースは、すごくよく練られていたものだと感じました。同じ範囲を 2 回回されたようには感じられず、終始新鮮な気分でオリエンテーリングができたので、最後まで気が抜けませんでした。またウィニング 90 分は妥当なラインであると感じ、95 分代しか出せなかったのでまだまだ精進が必要だと感じました。」

松澤:
「お二人には、今後ますますの活躍が期待されます。今年度の目標や、さらにその先の目標をお聞かせください。

結城:
「つい先日、日本代表選考会が終了したのですが、全日本で WOC（世界選手権）の出場権を獲得してから、あるいは大学生最後のインカレが終了してから、次の目標が定められずにいました。しかし、選考会でふがいない想いをしたことで、気持ちが吹っ切れました。今の目標は、WOC 代表内で一番速い選手になることです。そして、努力で人を黙らせることができる人間になること。
その先の目標については今のところ考えていません。」

皆川:
「自分の競技レベルを高まることも大切ですが、次につなげることが重要になってくると思いますので、これまでのいろいろな経験を伝えていきたいと思います。そして、地域クラブの活動、県の活動などを通して、多くの皆さんとともにオリエンテーリング界を盛り上げられたらとてもうれしいです。」

松澤:
「お二人の意識の高さが随所に感じられるインタビューでした。ありがとうございました。今後のご活躍にも期待しています。」

インタビューを終えて

両選手に共通している点がいくつかあります。
・レース内容に決して満足していない。
・他の選手の動向や結果を意識するよりは、自分の走りに徹しようとしている。
・テレインの事前研究を重視している。

上記のように振る舞えば、必ず結果が伴う、というわけでもありません。上り調子の時ほど上記のような気持ちになりやすいし、結果も伴いやすい、ということだと思います。大舞台でどう闘うか、直前の僅かな期間だけ考え、行動するのではなく、日頃から「競技者として良い習慣」を身に付けるような生活を送ることこそが大切です。過去も現在も、少し先の未来も、全ては来るべき大舞台のレース前の時間であり、その大舞台のレース内容やレース結果に影響します。月並みですが、できることは、今、始めましょう。
（松澤俊行）

松澤俊行プロフィール
1972 年静岡県生まれ。全日本選手権では、リレー3 回、ロング 3 回、スプリント 1 回の優勝経験を誇る。現在は、「全日本選手権優勝」と「世界選手権日本代表への復帰」を目標として、練習に取り組んでいる。